

2020 年度 第 1 回 勉強会
**「住民主体による訪問型サービス」と
移動・送迎支援の仕組み作り**

日 時 : 令和2年10月14日(水) 13:30~15:00
場 所 : 東京都八王子労政会館 第4会議室(3F)

特定非営利活動法人 八王子共生社会推進会議

一般財団法人トヨタ・モビリティ基金助成事業

《 目 次 》

- ② 地域の高齢者の生活ニーズの最新状況（佐藤氏）・・・・・・・・（4）
- ②市が推進する移動支援の取り組み・・・・・・・・（9）
～地域主体の移動支援を推進する体制の構築～（辻野氏）
- ③ 移動・送迎支援の輪を広げて地域を元気に・・・・・・・・（12）
～中間支援組織について～（伊藤氏）

~~~~~

- ・ディスカッション（進行：服部氏）
  - ◎移動・送迎支援に関する課題の共有と解決策

## 《講師紹介》

- ・服部真治氏  
（一財）医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構研究部  
主席研究員 兼 研究総務部次長  
（公財）さわやか福祉財団エグゼクティブアドバイザー
- ・伊藤みどり氏  
NPO 法人全国移動サービスネットワーク 事務局長
- ・佐藤一広氏  
高齢者あんしん相談センター片倉 センター長
- ・辻野文彦氏  
八王子市 福祉部 高齢者いきいき課主査

## はじめに

特定非営利活動法人 八王子共生社会推進会議 理事長 大福 族生

もやい理事長の大福です。全国レベルでご活躍されておられる講師の方々をお迎えしお話を伺えることとなりました。参加された皆さんの総力で外出時困難な高齢者のための方策を探って行きたいと思います。ご支援頂いておりますトヨタモビリティ基金事務局の方のご挨拶をお願い致します。

一般財団法人 トヨタ・モビリティ基金 プログラム・マネジャー 宮本 明子氏

トヨタモビリティ基金の宮本です。もやい様担当者以上にこの活動を応援させて頂いております。私共としてはこの活動に大いに期待しております。どうぞよろしくお願い致します。

八王子市福祉部高齢者福祉課課長補佐 白井 弘文氏

八王子市高齢者福祉課白井です。本日はこのような勉強会にお招き頂きまして有難うございます。

皆様には日頃から高齢者福祉や認知症に関するご理解とご協力を賜りまして有難うございます。高齢者福祉課は、介護予防日常生活支援総合事業や認知症施策等を担当しています。生活支援体制整備事業活動団体も現在 29 団体に達しており、訪問サービス C 事業も次第に活発になってきています。移動・送迎支援事業は大きな課題になってきており、八王子市でもその重要性は次第に高まってきています。こうした活動は地域全体で取り組んでいくことが重要です。引き続き全力で取り組んでいきますので、今後共ご協力をお願い致します。簡単ですがご挨拶とさせていただきます。



## 地域の高齢者の生活ニーズの最新状況

### 高齢者あんしん相談センター片倉 センター長 佐藤一広氏

服部：医療経済研究機構の服部です。1時間半の制約がありますので早速始めます。先ず高齢者あんしん相談センター片倉の佐藤さんの話から始めたいと思います。佐藤さん宜しくお願いします。



高齢者あんしん相談センター片倉の佐藤です。現場ならではの話をさせていただきます。

「地域の高齢者の生活ニーズの最新状況」を伝えて貰いたいとの依頼がありました。お伝えしたいことが2つあります。

コロナ禍における高齢者の生の声と移動支援における取組をご報告させていただきます。「生の声」をお届けし、現状（気づきや取組）を知って頂くことで、これからの活動のヒントであったり一歩踏み出す一助になればと思います。

早速ですがご高齢の方の声を拾ってきました。介護保険制度を利用しているご本人にとって身近な存在であるケアマネジャーの声です。時間の都合で割愛しますが、テキスト等をご確認下さい。

#### コロナ禍における高齢者の状況

介護保険制度を利用している本人にとって

身近な存在ケアマネジャーさんの声から・・・



#### 地域の高齢者の生活ニーズの最新状況

- ・どうしたら
- ・データにもとづいた
- ・立場から伝えられる2つのこと



八王子市介護支援専門員連絡協議会のケアマネさんのアンケートがHPで公開されておりますのでここからニーズを拾って下さい。結構有効な情報が詰まっていますのでご活用下さい。ご家族がコロナ禍でストレスから鬱病を発症してしまったり、活動を自粛することでサービス制限されるといったことが起きています。

### コロナ禍における高齢者の声 & 移動支援におけるとりくみ

(地域住民、様々な機関等との連携の中で)



令和2年 10月14日  
八王子市高齢者あんしん相談センター 片倉  
認定社会福祉士・精神保健福祉士 佐藤 一広

#### 約250人のケアマネさんからのアンケート調査、他より

(調査対象時期：令和2年4月1日～令和2年4月30日)

##### 抜粋

- ・本人が感染不安でデイサービス自粛、一か月後、筋力低下、2Fに上がれなくなり、寝室1Fへ、布団からベッドの導入へ。玩好も不安が継続、未だ利用なし。
- ・本人の意向でデイサービス自粛。介護者の介護負担が増加、うつ病を発症。
- ・家族の意向で、本人感染が心配だからデイサービス、他の集まりには行かせない、本人は行きたがっていた。意欲が低下して、すべてにやる気がでない。
- ・家族がテレワーク勤務となり、本人との衝突が増えた。互いに精神的負担が増加、暴力に発展。

・通所介護 495件 訪問介護 70件 訪問看護 64件が中止

私が聞いた「心の声」を3つ紹介させていただきます。

Aさんはお孫さんと5人暮らしでデイサービスを利用しており、とても仲の良いご家族です。一緒に外食をしたり、家族間の情報も密な方です。お孫さんの彼氏の話も良く聞かされているお爺ちゃん、お孫さんの目がとっても可愛いよってという彼氏の言葉も知っています。このお爺ちゃんに「緊急事態後、如何でしたか？」の質問に「何だか寂しくって、孤立している感じなんだ。コロナ予防のため食事時間を一人ひとりずらしているんだ」家族の会話が減って力が出なくなっている状況を気落ちしている様子で話してくれました。Bさんは80代の独り暮らしの女性でフラワーアレンジメントが趣味の大変細やかな性格の方です。1か月前急性脳梗塞で倒れましたが幸い麻痺も残りませんでした。そんなBさんに伺いました。「最近ストレスで倒れたの。遊びに来てくれていたお孫さんが来なくなりました。体操教室もお花の教室も中止になっています。」今は歩行が不安定で辛く、教室には不安で行けないようです。Cさんは独り暮らしの女性です。引っ越しをされた後自ら命を絶ちました。孤立が原因と娘さんが言っています。もっと繋がり支援ができなかったかと、今でも後悔しています。

### 心の声

- ・# 「動いていないのに疲れやすくなった」
- ・# 「一緒にいても孤独だよ・・・」
- ・# 「足腰がふらつくようになり家族が外出を心配するようになった、だから外出しない」
- ・# 「近所とは違ったつながりがなくなった」
- ・# 「大丈夫だからと孫に伝えながら自分に言い聞かせているのよ」
- ・# 「そして、すべてが無くなった・・・」
- ・# 「私はストレスで倒れた」



切なかつたこと、独り暮らしでなくても家族の中で孤立していたり、虐待があったりするので早く安心していきたい場所、行きたい場所に行ける支援が必要です。

### 切なかつたこと

- ・家族内でも孤立化、孤独化
- ・根深く打ち直れていない人がいる
- ・家族内システムが変化し、ストレス増加、虐待が増加
- ・認知症の悪化
- ・早く、安心していきたい場所を作る支援、いきたい場所に行ける支援を

精神不調(うつ症状)・つながりの喪失・身体機能低下・疾患発症

コロナ禍で高齢者に齎した大きな影響は外出の繋がりを奪った、社会参加の機会を奪ったことであり、フレイルの加速が起きていると考えます。社会参加できる環境が今こそ必要なのでないか。

### コロナ禍における高齢者にもたらした大きな影響

~~外出  
つながり~~

社会参加の機会が減少(運動↘・栄養↘)

つまり フレイル(虚弱)状態の加速

危惧していること      これから秋～冬      メンタルも崩しやすい

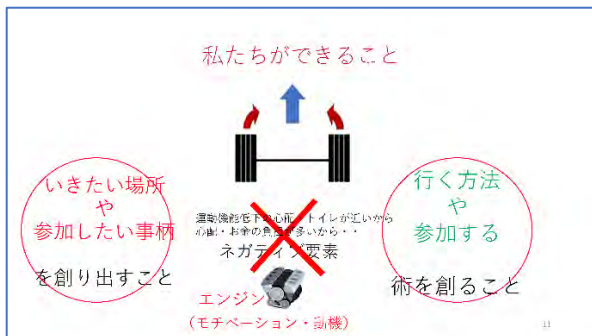
### 社会参加できる環境整備が 必要

社会参加に必要な要素に3つあります。1つは行きたい場所や参加したい場所があること、2つは行く方法や参加する術があること、3つは本人の動機部分の3つが揃って社会参加ができるのではないかと感じています。

「ここにいる私たち皆ができること」は何かを考えてみます。

ここにいる私たち皆ができること

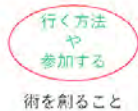
行きたい場所や参加したい事柄を創り出すこと、行く方法や参加する方法、例えばタクシーで行くのか、住民主体の訪問Dで行くのか、オンラインで行くのか、いろいろな術があると思います。そしてネガティブ要素（筋力低下・トイレが近いから）を解消していくことが重要と考えています。



移動支援の視点を変え考えてみたいと思います。訪問Dの方がお散歩企画を立て施設間移動を連携することも可能になるのではないのでしょうか。

今回の勉強会のテーマ、移動支援と関くと中區を促って移動と考えると思いますが、ここでは視点を少しかえて

### 住民主体で行った取り組み 報告



事例を紹介させていただきます。休息場所を設けることで本人の行きたいを支援する取り組みです。



誰かの〇〇したいをかなえる

片倉台自治会「ひとやすみプロジェクト」を紹介します。



休息場所に椅子を設置し移動支援を実践する取り組みです。現在この地区の高齢化率は約40%です。居住区の高齢者には坂道が多く歩くのが大変です。先ず「スーパーまで歩いて行きたい」という高齢女性の声を拾う所から始まりました。

- ・これは片倉台自治会、多くの住民の方、生活支援コーディネーターさん、様々な方で行った、地域に休息できるイスを設置し、移動の支援を実践しようという取り組みです。
- ・片倉台地区は・・・ご存じの方も多いと思いますが高齢化率が40%を超える地区。かつ、なだらかな坂が続いたり急勾配の坂が存在しているところだ。
- ・そんな地区に住む一人の高齢女性の声をひろうところからはじまりました。
- ・「自分の足で歩いてスーパーまでいきたい。休息場所もなく、帰りはうざくまったりタクシーを利用することもある。じゃないんだ、本当は歩いていきたい。」そんな声が回りにたくさんあった。

次第にいろんな方に関わって頂き、勉強会をしたり、街歩きしたり、医療機関や住民皆様等に呼びかけして椅子が12ヶ所でき、掲示板ができ、花を植える活動ができ、土地を提供してくれる人が出てきたり、大きな展開に繋がったところ。椅子が12か所できました。

- 実施主体：片倉台自治会
- 参画メンバー：片倉台自治会、社会福祉協議会、生活支援コーディネーター1層、2層・CSW、社会福祉法人、介護保険サービス事業所、高齢者おんしん相談センター片倉台、医療機関、民生委員、造形大学、工務店、株式会社等
- 目的：だれでもひとやすみできる場所を作りたい！！
- 経過：○住民の移動に関するの困りごとを情報共有
  - 実施調査、フィールドワーク
  - 先進事例勉強会
  - 住民へ課題周知、参画メンバー呼びかけ
  - 椅子設置 12か所
  - 派生的に掲示板設置者、花壇、掃除担当
  - 片倉台自治会へ土地の無償譲渡 登記



できました、めでたしめでたし。

ここに至る迄失敗を重ね苦勞もありました。

失敗より学ぶ



例えば「ゴミがごみを呼ぶ」事件はデイサービスの方の主体的定期清掃で改善され、「椅子に見られている」事件は自治会から丁寧にお詫びと説明を重ね解消しました。参加者が増え、役割を持つことで協力の芽が育ち次第に理解が進み、思いがけない相乗効果が生まれました。

失敗より学ぶ

- ゴミがごみを呼ぶ 近隣デイサービスが主体的に定期清掃 通所者の役割へ
- イスに見られている 自治会からの丁寧なお詫びと説明
- 計画的に、戦略的に会館運営 いつまでに だれか 何をやるか。意思と、義務感、おしつけ。  
こうなったら楽しそう、どうしていきましょうか。楽しい場づくり、茶菓子で談笑しながら、街歩きを一緒にして参画、一緒に行動。
- 参加者が固執することで意見の煮詰まり 参加する原口が広げれば広いほど、意見の化学反応が多くなる。思いがけない相乗効果が生れる。

「できない」から「できる」への気持ちの変化がありました。資源、何もないところから始まっています。お金は後からついてきました。

【参加メンバーの声】

住民主体の活動で得られた成果と気づき

- できないからできるへの気持ちの変化


(資源やお金もなかった、あったのは、やってみようという気持ちと行動 出るもの)  
を活動資金がなくても始められることがある。お金は後からついてくる?)

写真で椅子の上に一句添えられています。それを見た方がお花を添えて下さいました。

【参加メンバーの声】

- ひとりの得意なことを活かすことで生まれる新たな活動の可能性

(椅子を制作できる人、ペンキ塗りが得意な人、園芸が好きの人、句が得意な人 つよみに焦点を向け活かす)



ます。この場所は不動産会社から無償で提供されています。

【参加メンバーの声】

- つながりが増えていくと予想しないえなことが起きる。

(人づてに情報がひろがり、協力してくれる人は増える。 わらしべ長座)



この方、ガレージを開放したり、近くの方を招いて毎朝門扉の開け閉めの役割を持ち、地域の方と様々なつながりが増えました。

【参加メンバーの声】

- 参画することで参加者同士、そして、地域と違うつながり方が増えた。

(つながり方の多様性)



参加することで地域の可能性は無限大、地域は「生きもの」なんだなあと改めて感じました。

【参加メンバーの声】

地域の持つ無限の可能性  
(1 + 1 = 2 ではない∞)

実践で学んだ「地域の中で何かを作り出す際の3つのこと」をまとめてみました。

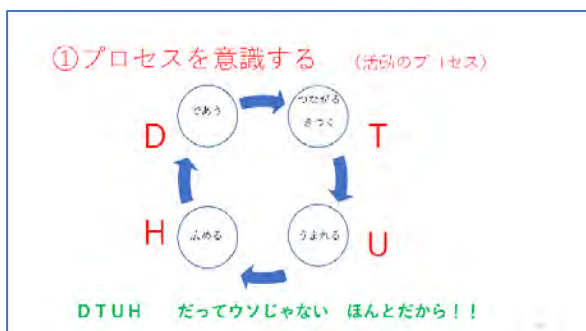
実践から学んだ 今日からできること

- 3つの大切なこと



展開のプロセスを意識する（プロセスの循環）…  
D であう → T つながる → U 生まれる → H 広める  
の循環で活動が少しずつ広がっています。

（だってウソじゃない ほんとだから！！）



小さなアクションからでもはじめてみる…椅子の活動＝移動支援→休息の場所→交流の場→情報発信→役割を持つ方が現れ→住民が繋がり→緩やかな見守りの形ができるようになりました。

### ②小さなアクションからでもはじめてみる

（はじめは、小さな活動でも、何の活動や機能を担うようになる）

最初のゴールは移動・・・

移動支援(自立支援)→休息の場→交流の場→  
情報発信の場→交流→ちよボラ（役割創出）→見守り（ゆるやかな）

ポジティブに焦点をあてる…自分の足で歩いて買物に行きたい、こうだったらいいな、焦点を当てることでネットワークが広がり、自発的な活動になります。

### ③ポジティブに焦点をあてる。

- 誰かの困りごとに焦点をあてるだけでなく、ポジティブな視点〇〇したい、〇〇だったらいいなに焦点をあてる。
- 楽しみながら参画できるしなげを。個人、地域の良い点に目をむけその力を借りること。
- 個人、地域の力を引き出す（エンパフメント）

マインド(土台)のところで大切なのが楽しく参画しながら頑張らないで頑張るできる範囲でできることを行う！！…のは大切に感じております。

### マインド（土台）

楽しく参画しながら

頑張らないで頑張る

できる範囲でできることを！！

このプロジェクトでは沢山の方から笑顔頂きました。いろいろな方のお力を頂きながら椅子が置かれていろいろなものが生まれました。



何か一つでも気づきがあり、明日からの一步の一助になれば幸いです。誰かの「こうしたい」を皆様と一緒に叶えていきたいと思ひます。これからも宜しくお願ひ致します。

ご清聴有難うございました。

本日、お伝えした、失敗談、得られたことの中から、それぞれの皆様の中で何か一つでも気づきがあり、これからの皆様の一步を踏み出すことの一助になれば幸いです。「誰かの〇〇したい」にここにいる皆様と一緒に取り組んでいきたいと思ひます。これからも宜しくお願ひいたします。

ご清聴ありがとうございました。



# 八王子市が推進する移動支援の取り組み

## 八王子市福祉部高齢者いきいき課主査 辻野文彦氏

服部；佐藤様からは高齢者の「心の声」をご紹介頂きました。続いて移動支援についてお願い致します。



高齢者いきいき課の辻野です。

八王子市の移動支援の取組について考え方を報告し、皆さんと一緒に取り組んでいきたいと考えています。行政は国のガイドラインに沿って仕組みを決めたがります。本来介護保険制度は自治体の状況に合わせ自由に制度設計できるものになっています。脱却して新たな仕組みを考えていきたい。

移動困難な理由は、歩くことが困難・階段坂道が困難・公共交通機関がない…ですが、八王子市は自立支援の力になることに合わせて、移動困難も解決していきたいと考えています。

★どのような理由で困難を感じていますか

- 歩くことが困難である … 47.3%
- 街路の階段や坂道の上下りが困難 … 39.4%
- 公共交通機関の本数が少ない … 35.6%

市の現状確認から見ていきます。ニーズ調査で高齢者移動困難者調査結果です。八王子市高齢者15万人の11.3%≒1.7万人の移動困難者がいます。

八王子市「暮らしと健康の調査2019」より

- 調査対象：令和元年11月30日時点で65歳以上である高齢者
- 対象者数：8,398人 ■回収結果：6,141票 (73.1%)

「あなたは日常的な移動(買い物や通院等)に困難を感じていますか。」

「困難を感じている」… 11.3% (総数)

市の高齢者人口で考えたと約1.7万人程度

調査結果等から以下の取り組みを計画の柱として位置づけ(案)

- 1) 地域ネットワークの充実
  - 生活支援体制整備の推進、包括的な支援体制 ほか
- 2) 自立支援・重度化防止
  - リエイブルメントの推進、介護予防・健康づくりの積極化
  - 生涯現役社会の構築と積極的な社会参加 ほか
- 3) 認知症の共生と予防
  - 認知症との共生、認知症予防
- 4) 在宅生活の支援
  - 在宅生活を支える取り組みの推進 (多様な主体による移動支援の充実)
- 5) 介護保険制度の持続可能性確保
  - 介護人材の確保・育成・定着、介護現場の生産性向上ほか

移動支援は、八王子市の次期計画でも重要な取り組みのひとつとなる

住民主体で移動支援に取り組むときの課題は 1)マイカー移送の事故補償問題 2)移動支援ボランティア不足問題 3)車不足問題 4)取り組み方がわからない⇒横断的コーディネート機能が必要といった問題があります。

### 住民主体の移動支援に取り組むときの課題

住民主体で移動支援を充実したいが、地域での取り組みにくい主な理由は？

- 1) マイカーでの移送は事故等の補償に不安がある
  - ⇒ マイカーを活用しても適用可能な補償制度
  - ⇒ 安全運転のための講習
- 2) 移動支援のボランティアが不足している
  - ⇒ 担い手を幅広く確保する（研修等）
- 3) 車両がない（レンタカーの利用では費用がかさむ）
  - ⇒ 車両を貸し出す制度（保険付き）
- 4) どう初めていいかわからない（制度の難しさ、きっかけ、運営経費等）

これら課題を「地域」視点で総合的に支援する横断的なコーディネート機能が必要

八王子市と似た活動をしている広島県福山市の事例を紹介します。車両は行政が調達し地域の団体に貸し出しし、団体はボランティアを募集し、講習を受け、移動支援をします。

### 市町村の車（保険付・ガソリン付）で住民が運行する事例

#### 広島県 福山市「高齢者外出支援事業」

人口：467,220人  
高齢化率：28.5%

プロセスとしくみ登録不要

- ・ 高齢者を対象としたタクシー券の交付事業等を見直し、地域で高齢者を支える仕組みとして2009（平成21）年度に創設
- ・ 地域ごとに住民が支援グループを結成（構成は、自治会町内会連合、ボランティアの会など）

|                   |                                          |
|-------------------|------------------------------------------|
| 福山市が車両を調達（リース）    | ワゴン7台、セダン1台、軽1台、持込1台（9地区用）               |
| 地域の有志の会に車両の運行等を委託 | 地域の有志の会（ボランティア）<br>・ サービスの実施<br>・ 車両の管理等 |
| 業務上の責任は福山市が負う     | ボランティアの募集、利用者の登録等<br>・ 運転者は「認定運転者講習を受講」  |
| 実施状況              | 9学区（地区）で実施（2019年10月現在）<br>運行曜日 各5日～2日/週  |
| 利用者負担             | なし                                       |

八王子市は介護サービスに頼ることから脱却し、自立支援・介護予防に舵を切りそれを支援します。佐藤さんの話にある通り「できることからチャレンジしたい」地域を柔軟に応援できる制度を目指します。行政が地域に出向くのはハードルが高い。沢山の車両を購入し貸与する財源もない。

### 介護保険サービス漬けにしない自立支援アプローチ

単なる介護保険サービスだけを組み合わせた、介護保険サービスに利用者当てはめたりするケアマネジメントから脱却し、その人に本当に必要な場所や支援を介護保険に限らず、幅広く探し、無ければ地域で創り出す発想へ

これまで

訪問介護

ヘルパーによる買い物

通所介護

送迎してくれるデイサービスで機能訓練

これから

地域の多様な主体による生活支援

送迎付きフィットネスジムで定期的に運動

駅前スーパーまでの歩行・バスの乗車をリハ職による訓練

住民主体による生活支援  
・ 買い物運搬の場等への移動支援など

スーパーで自分で運んだ購入品は宅配サービスを利用

中間支援組織が行政と地域を結ぶために必要です。中間支援構築を計画に盛り込んでいきたい。

### 市が目指す移動支援体制の構築とは

地域活動団体

第二層 生活支援コーディネーターによる地域とのつなぎ、課題・ニーズの把握

ボランティア人材育成（交通安全講習） 福祉車両の貸出し（保険付き） 情報発信・NW（障子・聴覚障害等） 移動支援立ち上げの市上支援等

移動支援の充実にかかるネットワーク構築と地域コーディネート機能

「移動支援にかかる意見交換の場（協議体）」 ※多様な主体の参画による情報共有

地域主体で取り組めること

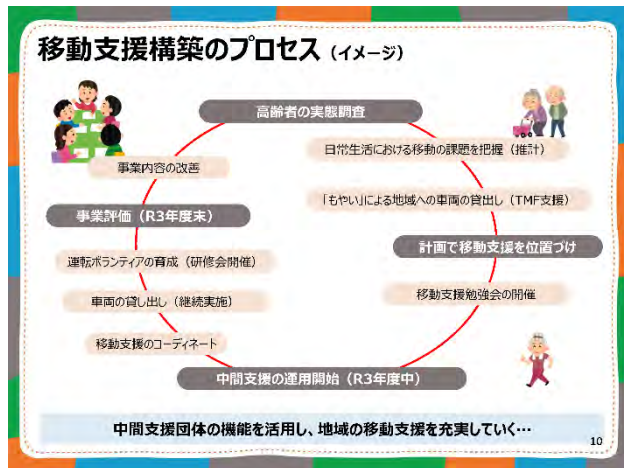
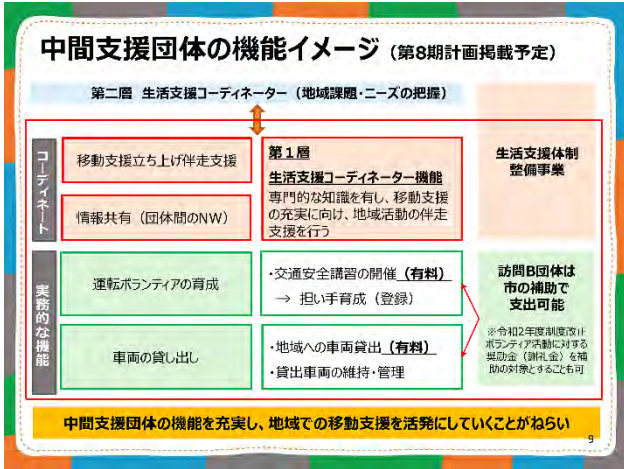
公共交通政策で解決を図るもの  
→ 市内駅周辺での歩行・交通マスタープランへの反映

地域課題・ニーズA 地域課題・ニーズB 地域課題・ニーズC 地域課題・ニーズD 地域課題・ニーズE

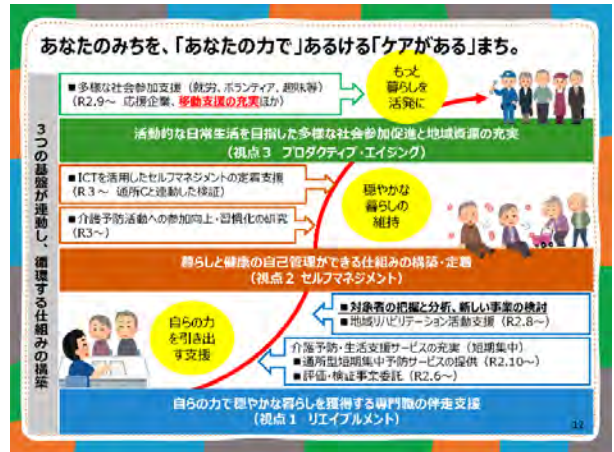
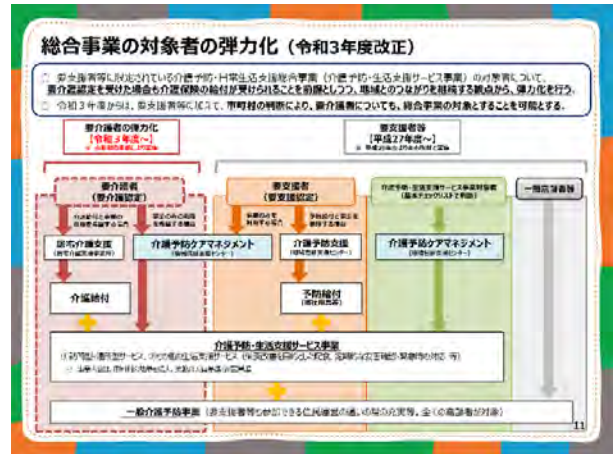
ニーズ調査による実態把握（移動支援が必要となる目的や課題の確認）

中間支援組織に2つの機能が必要です。1つは移動支援立上げ伴奏支援です。移動支援に特化したコーディネーターを配置して行政との情報共有と立上げ迄の伴奏支援をして頂きたい。2つは運転ボランティア育成をメイン（交通安全講習を実施）に、車両を保有し地域に貸し出しできる事業展開ができるような団体になってほしい。地域への車両貸し出しは有料とさせて頂きたい。訪問Bには補助金を交通安全講習参加費や車両費に充てて頂きたい。中間支援団体は実務的な機能を有しながら生活支援コーディネーターの移動支援に特化した第1層生活支援コーディネーターの機能を持ちながら地域と行政を繋ぐ移動支援の中間支援組織として構築していきます。中間支援組織が欲しいと言いましたが「もやい」

は既に活動されており、八王子市のメリットです。八王子市が考える中間支援組織・移動支援は皆さんの話を聞きながら形を整え、計画が動き出しましたら一緒に取り組んでいってほしい。図は移動支援構築プロセス（イメージ）です。



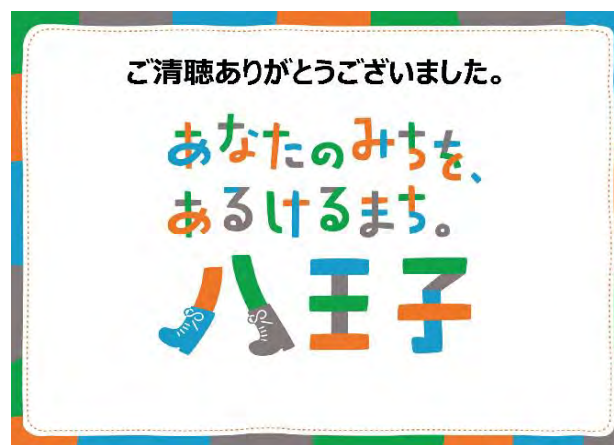
移動支援を総合事業の仕組の中で動かそうと考えています。要介護の認定を受けた人も介護予防を使うことができるようになります。移動支援も含め介護予防・自立支援を急速に進めていきます。八王子市は3つの視点で高齢者の社会参加・介護予防・自立支援を進めていきます。視点1リエイブルメント(自らの力で自立した生活が送れるように日常生活を再獲得して頂くような自立支援の取組)・視点2セルフマネジメント(自分の身を自分で守る力をつける)・視点3プロダクティブ・エイジング(高齢者の力を社会に還元していく)を皆さんの意見を伺いながら進めていきます。以上簡単ですが、報告終わりとなります。



### 【参考】データからみる八王子市の現状

令和2年4月現在（一部数値は）

|             |                    |                |                  |              |                      |
|-------------|--------------------|----------------|------------------|--------------|----------------------|
| 世帯数         | 186,368世帯          | 日常生活圏域         | 21               | 高齢者サロン       | 週1～：164<br>月1(自主)：30 |
| 総人口         | 561,622人           | 地域包括支援センター数    | 21<br>※10月時点     | 生活支援コーディネーター | 第一層 7名<br>第二層 12名    |
| 高齢者人口(高齢化率) | 151,845<br>(27.0%) | 町会・自治会(R1.6月)  | 576              | 保険料標準額       | 5,407円               |
| 世帯数         | 270,387            | シニアクラブ         | 188              | 車賃1・2        | 8,592                |
| 小学校         | 69                 | NPO法人          | 267法人            | 車賃1・2        | 11,927               |
| 中学校         | 37                 | 地域福祉推進拠点       | 7箇所              | 介護3～5        | 8,209                |
| 大学(宇田原市)    | 21                 | ボランティアセンターの登録数 | 団体：106<br>個人：259 | 認定率          | 18.9%<br>(28,728)    |



# 移動・送迎支援の輪を広げて地域を元気に 全国移動サービスネットワーク 事務局長 伊藤みどり氏

服部：「第8期計画策定中」の案を特別にご紹介頂きました。

皆さんの意見を聞いて計画に反映させて行きたいということ  
です。「全国移動サービスネットワーク」を伊藤さん  
お願い致します。



略称「全国移動ネット」の伊藤みどりです。八王子  
共生社会推進会議のトヨタ・モビリティ基金助  
成のアドバイザーを担当しています。中間支援組  
織の役割と、もやいの事業を紹介し、皆さんと一  
緒にどんなことができるか考えていきたいと思  
います。写真は全国移動ネットの活動の一つです。  
住民の皆さんとワークショップをしている様子と、  
訪問調査で買物支援の取材をしたときの様子です。  
移動・支援の立上げの伴奏支援をしています。

1. 中間支援組織について  
～全国移動ネットや地域ネットワーク組織～

NPO法人 全国移動サービスネットワーク  
■会員数189団体・個人（45都道府県）

■活動

- ・国や自治体への政策提言（交渉、委員派遣）
- ・人材育成研修（運転者講習）
- ・相談支援（利用希望者、団体、自治体等）
- ・移動サービス立ち上げ運営支援（講師派遣、伴走支援、行事開催）
- ・情報発信（各種書籍の制作、販売）
- ・調査研究（事例把握、ニーズ把握）
- ・被災地支援

高年齢者、障がい者などの移動困難者及びその移動を支援する団体に対して移動サービスに関する事業を行う

公共交通空白地有償運送、福祉有償運送、許可・登録不要の移動支援

2020.10.14 八王子共生社会推進会議主催勉強会

## 移動・送迎支援の輪を広げて地域を元気に

1. 中間支援組織について  
2. 八王子共生社会推進会議（もやい）のTMF助成事業  
3. コーディネート機能と実務的な機能

NPO法人全国移動サービスネットワーク  
事務局長 伊藤みどり

中間支援組織について、全国移動ネットの取り組みを紹介します。全国189団体個人の会員がいます。一番多いのは福祉有償運送を行う非営利法人で、高齢者や障害者の移動支援をしています。地域ネットワーク組織も会員に入っています。福祉有償運送などを行っている団体が地域ネットワーク組織を形成し、私どもの会員になっているということです。

例えば、かながわ福祉移動サービスネットワーク・移動ネットおかやま・横浜移動サービス協議会を見ると、共通する実施内容が3つあります。1つ目は担い手育成支援です。運転者講習付き添いボランティアの育成等があります。2つ目は活動現場で困っている情報やニーズを行政に届ける役割で、3つ目は利用者や活動団体のための情報提供です。

NPO法人 かながわ福祉移動サービスネットワーク

- ・神奈川県や市町村への政策提言
- ・人材育成研修（運転者講習、UDタクシー乗務員）
- ・相談支援（利用希望者、団体、自治体等）
- ・移動サービス立ち上げ運営支援（講師派遣、伴走支援、行事開催）
- ・情報発信（福祉輸送、NPO等のサービス紹介）

NPO法人 移動ネットおかやま

- ・岡山県や市町村との情報交換
- ・人材育成研修（運転者講習、通所付添いボランティア育成、SC養成）
- ・相談支援・情報発信（団体、自治体向け）
- ・移動サービス立ち上げ運営支援（出前講座）
- ・被災地支援

地域のネットワーク 約25  
市域のネットワーク ???

NPO法人 横浜移動サービス協議会

- ・横浜市や市社協への政策提言
- ・人材育成研修（運転者講習、ガイドヘルパー養成）
- ・相談支援・情報発信（利用希望者向け電話相談、サービスガイド発行）
- ・移動サービスの実施（福祉有償運送、ガイドボランティア派遣、送迎付き居場所づくり）
- ・福祉タクシー券の換金代行

地域の地域ネットワークは全国に 25 団体程あり、市町村域組織で把握しているのは 5 団体程度です。利用者への直接的なサービスを行っていないため運営は大変なところが多いです。次のスライドは、もやいの 2019 年度実績です。現在はコロナ禍で運行件数が中々伸びていかないということもあると思いますが、そもそも移動支援に足を踏み出し難い点があるのではないかと思います。中間支援組織であるもやいへの期待を込めて「コーディネーター機能と実務的機能」をご説明します。

### 2. NPO法人八王子共生社会推進会議（もやい）のTMF助成事業

「移動困難者を活動場所等へ移動・送迎支援するネットワーク構築活動」

**活動目的** 高齢化社会を地域の方で支えるための移動・送迎支援環境を整備する。そのために、町会・自治会を中心とした地域の生活支援組織に働きかけ、その人材育成と活動のネットワークを構築する

対象地域：八王子市全域  
(人口約561,000人 (高齢化率)27.1% (世帯数)271,648)

**<2019年度実績>**

- 移動・送迎支援センターを設置し、車両を貸し出し(運行回数 423回)
- 移動・送迎支援を実施する団体(6団体)及び実務運転者(4団体)の育成講習
- 八王子市や第2層生活支援コーディネーター(生活支援組織)の連携を推進する会議や勉強会(3回)の開催

※2020年度に向けて市と「八王子市移動支援サービスモデル事業」に関する協定書を締結

**ポイント** 人口56万人の中核市の規模で、市内各地で活動する活動団体をネットワークでつないで車両の効率的な運用を目指す初めてのケースである。

コーディネーター機能として 1)移動支援の立ち上げ伴走支援があります。買物支援やサロンの送迎、通院支援などを立ち上げるのは簡単ではありません。ワークショップをしてみるとネガティブな意見も出てきます。中間支援組織は第 2 層生活支援コーディネーターさんと一緒に、不安要素を取り除いていくお手伝いをします。

### 3. コーディネーター機能と実務的な機能（もやいの役割）

(1)コーディネーター機能

1)移動支援立ち上げ伴走支援

「第2層生活支援コーディネーターさんと一緒に！」

**<立ち上げのプロセス>**

- 訪問型サービス団体の中にプロジェクト等を設置
- ニーズの把握
- 資源を見つめる
- 地区に合う仕組みを検討する(訪問B+α)
- 担い手を育成する(講習会)
- 試験運行(数回)
- 保険のお金のやりくりを検討
- 協定書やマニュアル等を整備
- 本格実施

買物支援マサロンの送迎？  
通院支援？

乗り合っていく？  
1:1で送迎？

車両を借りる？  
マイカーボランティア？

2) 情報共有（団体間ネットワーク）があります。活動をはじめた団体の課題意識を形にしていく取組です。例えば、広報を通じて認知を高めていくとか団体の共通課題を解決していく機能が求められています。1) 2) とも「中間組織としての大きな役割」であり、もやいには来年以降も頑張ってください。

### 3. コーディネーター機能と実務的な機能（もやいの役割）

(1)コーディネーター機能  
2)情報共有(団体間のネットワーク)

- 実施団体の課題の把握と共有化
- 共通課題の解決に向けた対応
- 他の取り組みや制度に関する情報提供
- 車両や人材確保に向けた関係機関への相談・マッチング
- 活動に役立つ保険や安全確保のツールの紹介等
- 実施団体やサービスの認知向上に向けたPR・広報
- 災害や緊急課題に対応するための関係構築 等

<センター機能>  
・運営委員会  
・相談対応  
・団体訪問

勉強会・シンポ等の開催

関係機関を交えた協働の場づくり

訪問型サービス団体のみならず一緒に！

実務的機能の 1) 運転ボランティアの育成です。1つ目は一般市民に受けて頂く福祉有償運送運転者講習に準ずる講習。2つ目は福祉有償運送運転者講習。これも担い手不足です。介護が必要となる方の支援も手厚く推進していく必要があります。3つ目は移動・送迎のための法制度や運行管理、運営に関する講習会で、立ち上げ時何をやったらよいか分からない団体が結構あります。用意する書類は何か、気を付けなければいけない安全管理って何か等を学ぶことができる講習会です。

### 3. コーディネーター機能と実務的な機能（もやいの役割）

(2)実務的な機能

1)運転ボランティアの育成

- 福祉有償運送運転者講習に準ずる講習
- 福祉有償運送運転者講習<2021年度～>
- 移動・送迎のための法制度や運行管理、運営に関する講習会

※2021年度以降は、いずれも有料を予定

八王子地域福祉交通講習テキスト

実務機能の2)車両の貸し出しです。

中間支援組織が車を管理して貸し出すことができないかなと模索して参りました。残念ながらトヨタ・モビリティ基金の助成は今年度一杯で終了しますので、現在使用しているリース車両2台がなくなる可能性もあります。

皆さんがどれだけ車の貸し出しを希望していらっしゃるか非常に気になるところです。始めるときは車が沢山あったほうが良いと伺いましたが、車が少な過ぎ、十分活用できなかったとすれば、もっともっと車を増やしていく方法を考えなければと思います。例えば、もやいが2台所有し、さらに他から借りてくるというのも中間支援の機能として捉えていきたい。

現在は川口ブラボークラブとみんなの居場所「暖炉」とケアセンター八王子の3団体が運行していますが、本当はもっと必要な地域があるのではないかと考えています。

### <2020年度の運行実績(4月~9月)>

- ・新型コロナの影響で2つの団体が活動を自粛していた。
- ・7月より様子を見ながら3団体が活動を再開している。
- ・9月以降は増える予想。
- ・「小津倶楽部」は活動自粛中。

| 団体名         | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 合計  |
|-------------|----|----|----|----|----|----|-----|
| 川口ブラボークラブ   | 34 | 40 | 38 | 32 | 9  | 46 | 199 |
| みんなの居場所「暖炉」 | 0  | 0  | 0  | 16 | 21 | 23 | 60  |
| ケアセンター八王子   | 0  | 0  | 0  | 1  | 3  | 1  | 5   |
| 合計          | 34 | 40 | 38 | 49 | 33 | 70 | 264 |

カーシェアリングという方法もあるのかもしれませんが。中古車両の寄付を受けて困っている地域に貸し出す日本カーシェアリング協会という法人もあります。ご意見をお聞かせ頂き一緒に考えて頂きたいと思っています。有難うございました。

### 3. コーディネート機能と実務的な機能 (もやいの役割)

#### (2)実務的な機能 2)車両の貸し出し

##### <2020年度>

- ・独自の運行管理システムによる車両貸し出し ※東京高専の協力により整備
- ・スロープ車両2台:タント、シエンタ
- ・一般車両1台:マーチ



#### <2021年度は...>

- ・訪問型サービス団体からの希望に応じて、カーシェアリングを活用するなどして、**有料**での貸し出しを検討予定
- ※自前車両の有料貸出しにはレンタカー事業の許可が必要

- ・運行管理は継続



#### 様式一覧

- リース車貸与の各種手続き
- 自動車貸借契約書
- 団体データシート
- 運転者登録シート
- 利用者登録シート
- 車両借用申込書
- 車両借用書
- 日常運行点検表
- 運行日報月報
- 移動支援借用車両報告書
- 運転者貸借領収書
- ガソリン代領収書
- 支払明細書
- 車両月報
- 月間運行点検書
- 事故報告書
- 苦情処理簿

TMF助成終了後も、中間支援組織の機能を高めていきます。ぜひご参加ください。



## フリーディスカッション

### 移動・送迎支援に関する地区別の課題の共有と解決策の検討

進行: 医療経済研究機構研究部主席研究員 服部真治氏

服部: 本日のテーマは「住民主体による訪問型サービス」と移動・送迎支援の仕組み作りで「住民主体」がキーワードです。日常的移動に困難を感じている人が17,000人もいて「住民主体」で解決できる場所は解決できないだろうかというのが「第8期介護保険事業計画」でした。住民主体に焦点を置いて進めていきたい。佐藤さんの6「高齢者の方の心の声」で「家族が心配だから外出しない」のように社会参加が上手く行っていない方が沢山いらっしゃる。家に閉じ籠っているというのは、フレイル状態→介護保険認定を受ける状態になってしまうのではないかと。「社会参加に必要な要素」で、重要な要素3つのご指摘がありました。行きたい場所がある。行く術がある。モチベーションとか動機がある。ネガティブな要素を取り除かなければならない…具体的にどのようなことでしょうか。不安とか心配を取り除くとはどんな形でしょうか。



佐藤: 個別支援が必要なところで、不安要素の一つとして「転倒するのが不安」がリハビリになることもあるし、漠然と不安を感じている場合は、その不安を整理し見えるようにして一つずつ解決していくことであったり、気落ちしている人についてはカウンセリングしながら落ち着かせ、そこからコーチングで引き上げる等個別に対応します。

服部: カウンセリングやコーチングに専門職が必要になってきます。辻野さんの「視点1 リエイブルメント・視点2 セルフマネジメント・視点3 プロダクティブエイジング」循環する仕組みの構築がこれに当たります。視点1ではどんなことをお考えでしょうか。

辻野: 八王子市では自信を取り戻す支援を2つスタートしました。1つは8月に始めた「地域リハビリテーション活動支援事業(エンジン)」で、自信を取り戻すためのリハビリテーション事業です。認定の有無に拘わらずエンジン(自信を取り戻させる)リハビリ専門職の訪問C事業で、ケアマネがご自宅を訪問し、できないこと困っていることを評価し、コーチングし、助言する支援です。更に、2つは専門的支援が必要な時の「通所型短期集中予防サービス事業(10/1~)」です。八王子市はこの2つの自立支援の取組で、高齢者の自立支援の部分にアプローチを始めました。

服部: エンジンについては頑張っていきます…ということです。住民主体の移動支援を皆さんで如何に打開していくのが課題です。中間支援団体の話がありましたが、もやいにはその可能性が可成りあるのではないかと。全国移動ネットの知識をもやいに移転していくようなことも必要ではないかと。今後に伊藤さんの関わり方についてご照会して頂けますでしょうか。

伊藤；全国移動ネットワークは福祉有償運送団体が多くケアセンター八王子とは15年来のお付き合いです。高齢者免許自主返納が増加する中で相談の内容の大半は自治体・地区社協の方々に有償ではなくボランティアを考えています。しかし「何を支援していいかわからない」というのが実態です。

もやいの事業は全国各地で益々必要とされています。八王子市のような大きな自治体では是非中間支援組織を作って頂き、全体の仕組づくりができるような組織を増やしていきたいと思っています。そんな訳でアドバイザーとしてお手伝いさせて頂いております。

服部；1層のコーディネーターさんに移動支援立ち上げ伴走支援をやってもらうということでしょうか。

辻野；私のイメージは移動支援に特化した生活支援コーディネーターです。

服部；中間支援団体がこの生活支援コーディネーターを担っていくということでしょうか。移動専門のコーディネーターを団体にお問い合わせするとすれば、中間支援はどこからお金を得るのでしょうか。

伊藤；実は私達は弱小団体なんです。年間予算は1,200万円位ですが、400万円位は運転者講習会のテキスト代と講習会で4~500万円、後は会費と調査研究と委託事業等です。

服部；人と人を繋ぐとか、伴奏支援はなかなかお金を稼げる事業ではない。そこら辺が中間支援団体が中々立ち上がらない原因です。生活支援の予算で何とかして頂きたいところです。車両の貸し出しも是非担って頂きたい。TMF基金でチャレンジされていますが、是非続くことを期待しています。

交通安全講習と車両貸し出しは有料ですが「独立採算でやってほしい」という意味でしょうか。



有料の額を引き下げて地域の方に使い易い形にして頂きたい。訪問B団体には市から補助を出るので是非これを活用して頂きたい。会場の皆さん、意見等要望を等お聞きしたいと思います。

貝瀬；昨年補助金を頂いている高齢者支援連絡協議会で自治会が主になっています。毎週火曜日マイカーでボランティアで移送支援しています。悩みはボランティアさんが事故を起こしたときの補償問題です。保険は自治会で負担して頂けるよう国を動かして頂きたい。

伊藤；2017年損保ジャパンから「機能性サービス専用自動車保険」が昨年7月販売が開始されました。この保険に入っていると、マイカーボランティアの自動車保険を使わずに、団体が入っている専用保険から支払われます。使う台数と日数に応じた保険料で、対人対物だけで1日1台当たり400円、車両保険込みで1,700円です。八王子市でもご検討頂いていると思います。

辻野；訪問Bの補助金で、移動支援が生活支援の一部であれば保険料に使うことは可能です。

保険の詳細は損保ジャパンへ、補助金については高齢者福祉課にお問い合わせ下さい。

小峰；社協の小峰です。法人格がないと保険に加入出来ません。中間支援団体でご検討頂きたい。

服部；中間支援組織はそこも担うと同時に、保険に加入した車を貸し出す事業になるので高尾台さんでは車を借りるという選択肢も出てくる…と受け止めて頂ければと思います。

浜口；八王子保険生協の浜口です。2020年度運行実績で2つの団体が新型コロナで活動を自粛したとありますが、その間利用者どうしたんですか。利用者も命がけであり担い手がいる限りやりました。

古木；暖炉の古木です。利用者には事情を説明し、共倒れはできませんので休ませて頂きました。



服部；住民主体の活動ですので統一的に実施されないこともあると思います。

立川；社協の立川です。移動支援の話は出ますが、人が足りないので難しいです。一緒に勉強しながら進めて行けたらいいと思います。レンタカーでお買物もやりましたがコロナでお休みしています。

服部；福山市では地域によっては軽自動車に変えたりもしています。八王子市でもニーズに合わせ車を変えていけるようになればもっと使い易くなると思います。

古木；お願いがあります。この事業が今年度で終わるように書いてありますが、引き続き現状の支援をして頂きたい。ダイハツのタントをお借りしてますが凄く使い易いんです。乗廻が良いんでこのまま現状通り無償で貸して頂きたい。変更があると利用者に説明しなければなりません。現状通り「無償」でお貸し頂きたい。お願いします。

服部；パネルディスカッションはここで終わりと致します。

(発言者の敬称を省略させて頂きました)

大福；資料に入れてあります運転者講習の出前講座をご希望の方は「もやい」へお電話下さい。ケアセンター八王子内に事務所がありますので、何か相談がありましたらお訪ね下さい。伊藤さんにはアドバイザーとして引き続きご支援の程宜しくお願い致します。

本日は本勉強会にご参加くださりまして有難うございました。

以 上





特定非営利活動法人 八王子共生社会推進会議  
東京都八王子市散田町 4-24-15  
ケアセンター八王子内  
TEL : 070-4217-0427  
URL : <https://moyai802.com/>  
Mail : [info@moyai802.com](mailto:info@moyai802.com)